

整粒歩合の高いお米を生産するには、**充実した太い茎を確保することが重要です。**
そのため、次の作業をしっかりと行いましょう。

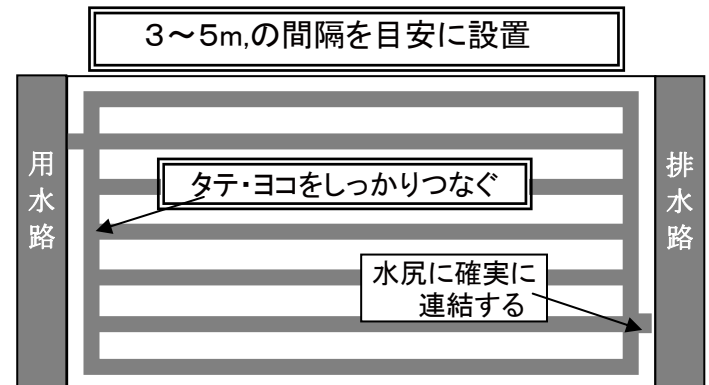
- ② 中干しを効果的に行うため、溝掘りを確実に実施する。
- ② 田植の1ヶ月後頃を目安に中干しを始め、無効となる分けつの発生を抑える。

1. 溝掘り

中干しや、その後の間断かん水を効果的に行うため、6月上旬までに必ず溝掘りを行いましょう。

＜溝掘りのポイント＞

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、3～5mの間隔を目安に溝を掘る。
- ・溝と水尻は確実に連結する。
- ・水の切れないほ場では設置本数を増やす。



＜乗用管理機による溝掘りのポイント＞

- ① 溝掘り前に2～3日程度軽く干す。
- ② ひたひた水程度に再入水し溝を掘る。
ほ場が硬い場合は、速度をやや早め、柔らかい場合はゆっくり走る。
- ③ 旋回する際、ハンドルは一定で操作する。

2. 中干し

6月は、気温が高く、急激に分げつが増加しますので、田植の1ヶ月後頃を目安に**遅れず中干しを開始しましょう。**

また、出穂後20日間の湛水管理に備え、この時期に確実に田面を固めましょう。

① 中干し開始時期の目安

田植日	中干し開始時期
5月10日	6月10日頃
5月15日	6月14日頃
5月20日	6月18日頃

◎中干しの効果

- ・無効分けつの抑制
- ・土中への酸素供給
- ・地耐力の向上

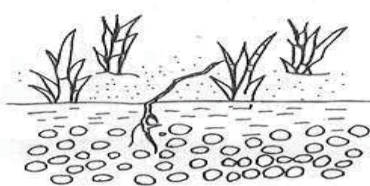


中干しの有無による根量の違い

② 中干し程度

・普通乾田

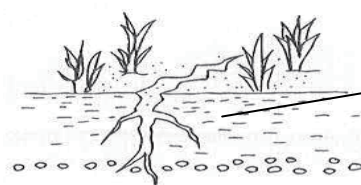
→ 長靴が沈まない程度の中干しで
期間は3～5日間程度が目安



田面に小さな亀裂
ができるまで

排水の悪いほ場では、事前に軽い田干しを行いましょう

・水はけの悪いほ場や粘土質、大豆跡田
→ 強めの中干しとして
期間は7日間程度が目安



田面に大きな亀裂
ができるまで

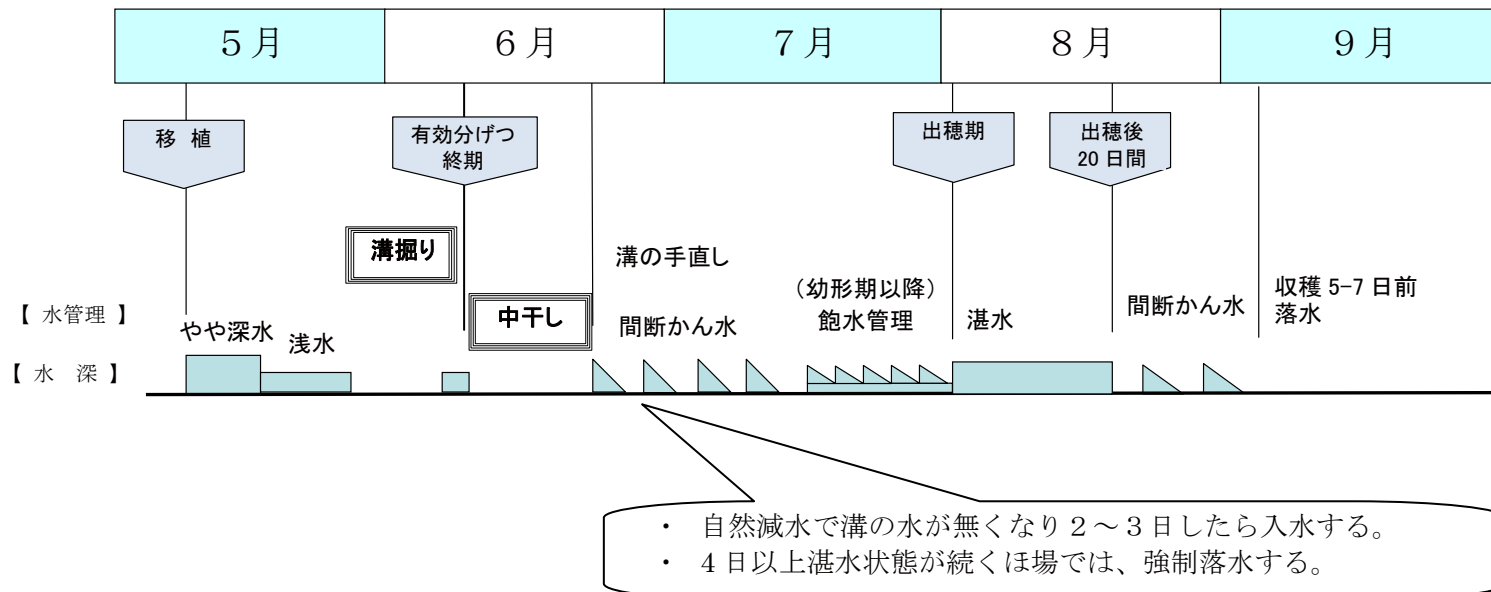
干し過ぎると、稲の生育にダメージを与えます。適度に田干しを行いましょう！
(復元田は、土がしまりやすいため、一度に干しあげず徐々に干すようにしましょう)

3. 中干し後の管理

① 間断かん水の励行

- ・中干し後は、湛水と落水を繰り返す「**間断かん水**」を行いましょう。

<水管理のイメージ>
(コシヒカリ)



② 中間追肥の施用

- ・ 県内の土壌分析調査の結果、7割近くでケイ酸・カリ成分が不足していることが判明しました。特に、**全量基肥施肥の場合は、カリ成分が少ないので、この追肥で補給して下さい。**
- ・ 6月中旬～下旬に **イソイ加里特号(15kg/10a)または シンキョーライトP(20kg/10a)を施用**しまししょう。

4. 後期除草剤の散布

～雑草が残った場合、使用方法を確認し、遅れずに散布しまししょう～

雑草の状況	除草剤名	散布量	散布時期	使用回数	水管理	使用上の注意
広葉雑草のみ残った場合	バサグラン粒剤	3～4 kg/10a	田植後15～50日 (収穫60日前まで)	1回以内	落水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで散布する ・ 散布後3～4日間は田に水を入れず、また降雨によって薬剤が流出しないよう、水尻は必ず止めておく ・ スポット散布も可
ノビエのみ残った場合	ヒエクリーン1キロ粒剤	1 kg/10a	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回以内	湛水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散布の際は、やや深めの湛水状態とする ・ 散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水・かけ流さない
	ヒエクリーン豆つぶ250	250 g/10a				
ノビエと広葉雑草が残った場合	フォローアップ1キロ粒剤	1 kg/10a	田植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫60日前まで)	1回以内	落水	<ul style="list-style-type: none"> ・ イネ5葉期以前の使用は避ける ・ 散布後、5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしない
	クリンチャーパスME液剤	1,000ml/10a (希釈水量70～100L)	田植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内		<ul style="list-style-type: none"> ・ 10a 当り1,000mlの薬剤を70～100Lの水で希釈し、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・ 散布後3～4日は入水・落水をしない
	ワイドアタックSC	100ml/10a (希釈水量100L)	田植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫30日前まで)	2回以内		<ul style="list-style-type: none"> ・ 10a 当り100mlの薬剤を100Lの水で希釈し、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・ 散布後2～3日は入水・落水をしない

※ 田が湧いている場合は、散布前に一晩程度軽い田干しを行う。